（報告）第 36 回 地質調査業協会技術講演会

(一社)熊本県地質調査業協会
理事長　工藤　伸　殿

(一社)熊本県地質調査業協会
技術委員長　田辺　龍平

第 36 回の技術講演会を開催しましたので以下の通り，ご報告させていただきます。

1、日　　時　　平成 28 年 9 月 30 日（金曜日）午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分
2、場　　所　　熊本県立劇場
3、出 席 数　　約 200 名
4、講 演 内 容　　（1）熊本地震からの復旧・復興について（13：40～15：00）
国土交通省　九州地方整備局　熊本河川国道事務所
所　　長　　森 田　　康 夫 氏
（2）熊本地震で生じた地表変位について（15：10～16：30）
熊本大学　大学院　自然科学研究科付属減災センター
特任准教授　　鳥 井　　真 之 氏

森田所長は、国交省がヘリ等から撮影した写真を交えて各地の被災状況や初動対応、その後の仮復旧の進捗状況や恒久対策としての今後の計画について話しをされた。国道５７号線の立野地区については、無人の重機を遠隔操作し安全を確保しながら崩壊斜面の上部に残留している不安定な土砂を除去していることや、現道の北側にトンネルを用いた新ルートを進めていることについて説明された。

鳥井准教授は、前震ならびに本震の直後に現地で撮影した写真を交えて益城町や南阿蘇村，阿蘇市の断層や斜面崩壊について説明された。布田川断層の今回の沈降量から推定すると 3600 年～1800 年間隔で布田川断層に起因する大地震が発生しているのではないかという説明があった。立野地区の大規模斜面崩壊については、現地の写真や模式図を用いて、崩壊の発生メカニズムの説明があった。

開会の挨拶をする工藤理事長

会場内の様子

熊本河川国道事務所長　森田康夫　氏

熊本大学　特任准教授　鳥井真之　氏

司会進行の村田局長

最後はスタッフでパチリ